

着物と私(10)

「京都で着物」

高崎 遥



今回「着物と私」を考えるにあたり、今までに私自身が着た着物を振り返りました。すると、小学生までは七五三やお正月に着物を着ていましたが、中学、高校になり、浴衣以外では着物を着ることがなくなったことに気づきました。現代では、そのようなこともめずらしくはないのではないのでしょうか。

大学生で成人式のために振袖を色々見るようになり、それがきっかけで着物がとても好きになりました。着物は、普段は着ることがないような色に挑戦することができたり、様々な色の組み合わせや着物の柄を楽しむことができたりします。色や柄の組み合わせで一つ一つの振袖が全く違う雰囲気になるので、自分に合った着物が見つかりますし、自分の好きなように雰囲気を換えられるところがとても魅力であり、また着物を着たいと思えるポイントなのではないかと思います。今考えると成人式は、成人になる節目の行事としてだけでなく、小さな子どもの時よりも成長して、着物と改めて向き合うきっかけやチャンスとなる、とても大切な行事なのではないかと感じました。

そして成人式がきっかけで私は以前、母と二人で清水寺の近くで着物を一日レンタルし、お花見に行きました。幸いにも私は京都に住んでいるので、日常的に借りることができる着物レンタルのお店が近くにいくつかあります。京都であればその時のようにお花見に行ったり、紅葉を見に行っ



たり、お寺をまわったりできるので、他の土地に住んでいるよりも気軽に着物を楽しめるのではないかと思います。

ここまでは主に女性の観点からでしたが、男性にも共通して言えることはいくつかあると思います。私の印象では、祇園祭で男性が浴衣を着ているのをよく見ましたし、お店で男性の浴衣を売っているのをよく見かけました。京都では、女性だけでなく男性も着物を楽しめる雰囲気が十分あると思います。だから着物を身近に楽しめる京都で、一度着物を着てみてはいかがでしょうか。



たかさき はるか (2011年度英米語学科卒業生)